

平成 26 年度 第 1 回 磐田市歴史文書館運営審議会

日時 平成 26 年 7 月 23 日 (水) 13:30~15:25

場所 磐田市竜洋支所 2 階 会議室

出席者 市歴史文書館運営審議会委員 6 名

鈴木直会長 小杉副会長 鈴木潔委員 市川委員 杉浦委員 石川委員

出席職員 教育委員会教育部職員 6 名

鈴木教育部長 大箸文化財課長 佐藤館長 山室副主任 名倉囑託 鮫嶋囑託

傍聴人 なし

議事 1. 報告事項

(1)非現用公文書等の移管選別状況について

〔事務局より説明〕

〔委員からの意見〕

○「歴史文書館収蔵件数」内の「地図・絵図」のうち、「絵図・鳥瞰図」にはどんなものがあるか。また、これまで市町村史を作るとき、使われたことがあるか。「歴史文書館収蔵件数」内の「地図・絵図」のうち、「地形図」とあるが、一番古いものはいつごろのものか。

(回 答) 絵図鳥瞰図は、旧市町村の各課から移管されて、それらを分類して、登録しているので市町村史で使用されているというものばかりではない。市町村史を作る段階で、地形図の収集を行ってきたが、明治 22 年測量 23 年発行のものについては、見付、掛塚の分は持っている。

○市の各課などから集まってきて、利用できるというのはありがたい。

(2)平成 26 年度前期 (第 13 回) 企画展について

〔事務局より説明〕

〔委員からの意見〕 なし

(3)レファレンス利用状況について

〔事務局より説明〕

〔委員からの意見〕

○調査できないものというものはあるのか。回答率はどのくらいか。

(回 答) 全て何らかの回答をするようにしている。該当資料がない場合は、「資料なし」と回答することもある。すぐに回答できない場合は、その日のうちに利用者へ現在の状況を連絡するようにしている。100%である。

○「廻船問屋の宗教について、調べたい」は、どのように回答したか。

(回 答) 「どこそこのうちは、何々宗か」などの内容で、立ち入ることは難しく、お調べになった通りではないでしょうかとお答えした。

(4)地域資料の受入れ整理状況について

〔事務局より説明〕

〔委員からの意見〕

○寄贈の基準を教えてください。

(回 答) 記録資料を収集している歴史文書館の方針は、市販書籍を除けば、多少年代

が新しいものであっても、受け入れをしている。

○市販されているものは抜いてということか。

(回 答) 書籍は図書館が持っているものである。ただ、磐田市に関するもの及び磐田市に関係する方が出されたものは頂戴する。寄贈者が興味を持って収集したものは、磐田市との関連性を見た上で判断する。

○高齢化により、その家のものを処分することが増えていくと思う。記録がなくならないうちに、歴史文書館へ寄贈してもらえようように工夫してほしい。写真、ビデオは各家庭のものでも寄贈していただければありがたいと思う。

○現在、保存されているもので、全く磐田に関係ないものがあると思うが、これらの扱いはどうなるのか。

(回 答) 磐田市の記述がなくても収集するものもある。歴史的資料として収集しているのは、①磐田市が関係していることが判断できるもの②磐田市の記述がなくても、磐田市がその中に含まれていて静岡県が載っているものなど、「磐田市」の文言が入っていないけれども、関係があると判断できたものは多少範囲を広げて収集している。

○福井県越前市の方の寄贈品も、磐田市と関係があるのか。

(回 答) 掛塚湊の文書ということで、寄贈を受け入れた。

(5)古文書解説講座について

〔事務局より説明〕

〔委員からの意見〕 なし

(6)福田町史編さん事業について (①事業の進捗状況②福田町史展③福田町史編さん事業講演会)

〔事務局より説明〕

〔委員からの意見〕

○資料編Ⅵの協力者には、寄贈をしていただいたか。

(回 答) 資料編Ⅵの掲載者には、1冊ずつ寄贈をした。

2. 協議事項

(1)企画展について (①平成26年度後期(第14回)企画展

②平成27年度前期(第15回)企画展)

〔事務局より説明〕

〔委員からの意見〕

○平成26年度後期(第14回)企画展には、天竜川上流で角材にされて川を下ってきたことも入れてほしい。竜洋町史編さんの資料にもプラスされていいのではないか。

(回 答) 竜洋町史の編さんが終了した今でも、未だにいろいろな資料が出てくる。上流の、掛塚湊に関係する市町村には、再度確認をして、資料の収集に努めたい。

○平成27年度前期(第15回)企画展には、遠州報国隊のことを入れてほしい。

(回 答) 資料を収集し、分析をしていく中で、検討していきたい。

①平成 26 年度後期（第 14 回）企画展の題名の一部が「生活」となっているが、何をイメージしているのか。

②平成 27 年度前期（第 15 回）企画展では、どのくらいの範囲で、どう磐田の近代化を結びつけるかってことを、幅広くやるのか、深く、細くやるのか。

（回 答） 歴史文書館の企画展は、ここにある資料を紹介する意味合いが強いが、いただいた意見については資料を発掘し、展示するように考えていきたい。

① ついては、廻船問屋の生活が窺えるお宅を調査中であること、隣の郷土資料館には掛塚湊に関わる資料があることからコラボレーション展示、掛塚の町並と人々の生活をつなげる展示などを考えているが、ご意見をたくさんいただきたい。

②については、明治維新期のリーダー的な人たちの動きをまとめて、ここにある資料で表現できないかと思っている。

○非常にいい企画だと思う。「ここにあるものを展示する」、それが基本だと思うので、できる範囲でやっていただきたい。

3. その他

(1)その他

〔委員からの意見〕

○松岡霊社の資料はすばらしい。

①「伝 何々」というのが 42 点ある。この「伝」を取るためには、それなりの鑑定をしないと「伝」が取れない。このうち、藤原行成の掛軸が真筆であるとすれば、重要文化財クラスであることは間違いないと思うが、真筆の判断は専門家の鑑定が必要となり、莫大なお金がかかる。今後やっていくという考えがあるか。

②真筆であった場合、保管場所を考えていかなければならない。埋蔵文化財センター特別収蔵庫に入れるのか、それとも、文書館の中に作るのか。会長の意見を伺いたい。

○意見を控えたい。

（回 答） ① 真贋を確認することはやっていかなければならない。価値のあるものならば、保管などの対応が必要になる。

② 埋蔵文化財センター内の収蔵庫については、調査を進める中で相談検討し、いい環境の中で保存できるように対応したい。

○特別収蔵庫に、受け入れる余裕があるのか。

（回 答） スペース的には余裕がない。埋蔵文化財センターは、古文書、民俗資料、民具など収蔵するところがなく、飽和状態であり、来年度にかけて整理整頓、取捨選択を行い、機能を明確にし、適正な保存ができるようにしていきたいと思っている。いつでも活用できる仕組み作りはこれからである。

○収蔵庫を増やすということか。

（回 答） 新設は考えておらず、既存施設を有効に活用する中で整理整頓を進めていく。

○「埋蔵文化財センター」だから、民俗資料は置けない施設ではないか。

(回 答) 市として、保存すべき資料等は、整理して、活用できるようにしたい。